

平成26年度
「スマートフォン等の使用に関する実態調査」
調査結果

平成27年1月
三重県教育委員会

調査概要

1 調査目的

平成26年度「スマートフォンの危険から子どもを守る事業」を進めるにあたり、三重県内における児童生徒のスマートフォン等の使用に関する実態・意識等を把握する。

2 調査対象

調査① 29市町各1公立小学校：4年生～6年生 各2クラス

調査② 29市町各1公立中学校：1年生～3年生 各2クラス

調査③ 県立高等学校10校：1年生～3年生 各2クラス

※ 基準：1学年各2クラス（40人×2クラス）で調査を行う。

但し、児童生徒数は対象学年（2クラス）の合計が80名に満たなくても構わない。

3 調査期間

平成26年10月20日（月）～11月14日（金）

4 備考

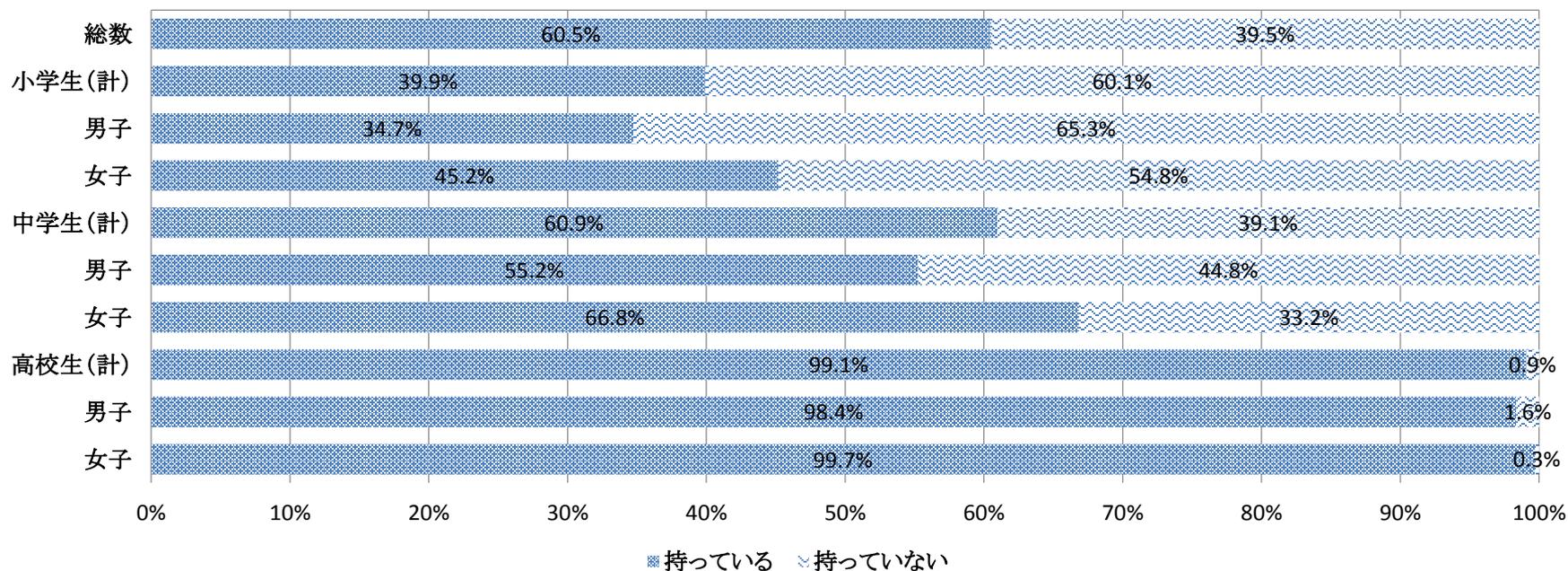
アンケート有効回答数（率）	全体	11,716人(99.3%)
<内訳>	小学生	4,354人
	中学生	5,093人
	高校生	2,269人

◆ この調査では、「ケータイ」は携帯電話やスマートフォンのことをいう。

1 ケータイの所持状況

自分専用ケータイの所持率 小学生39.9% 中学生60.9% 高校生99.1%

ケータイの所持状況(性、校種別)



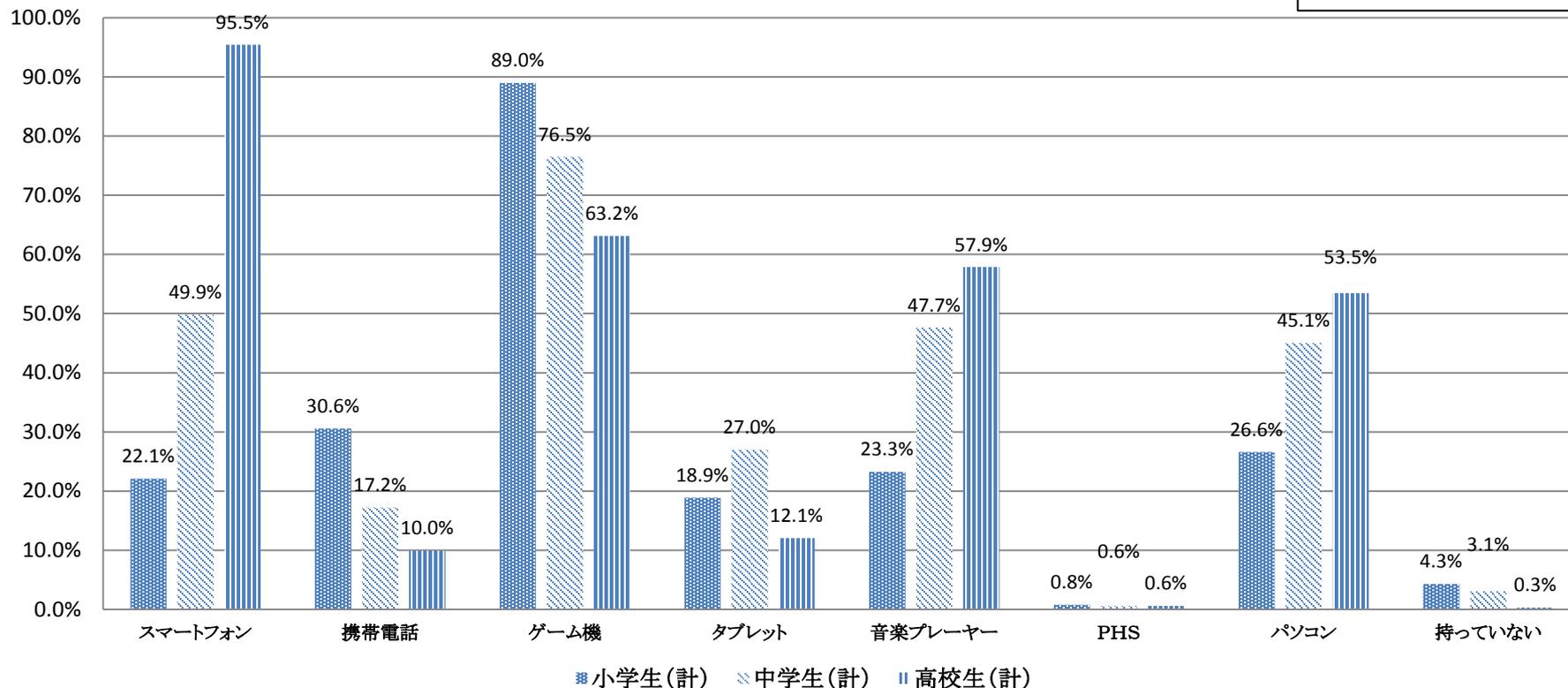
全体の所持率 60.5%
すべての校種において女子の方が所持率が高い

2 家で持っている機器

所持率が全校種とも高いのは、ゲーム機

持っている機器 (校種別)

(複数回答可)



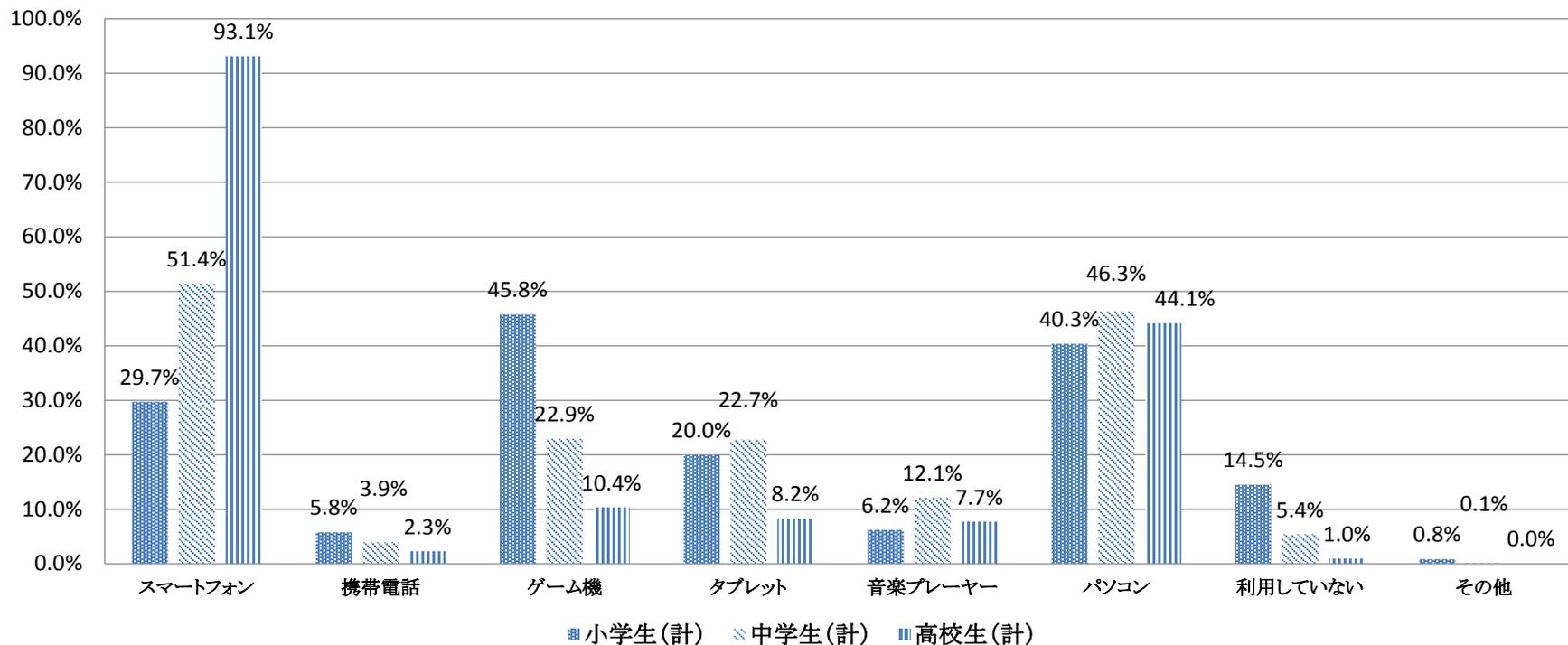
ゲーム機を所持しているのは、小学生89.0%、中学生76.5%、高校生63.2%

3 インターネット接続機器

スマートフォン、パソコンだけではない、インターネットの接続

インターネットを利用する時に使用する機器等(校種別)

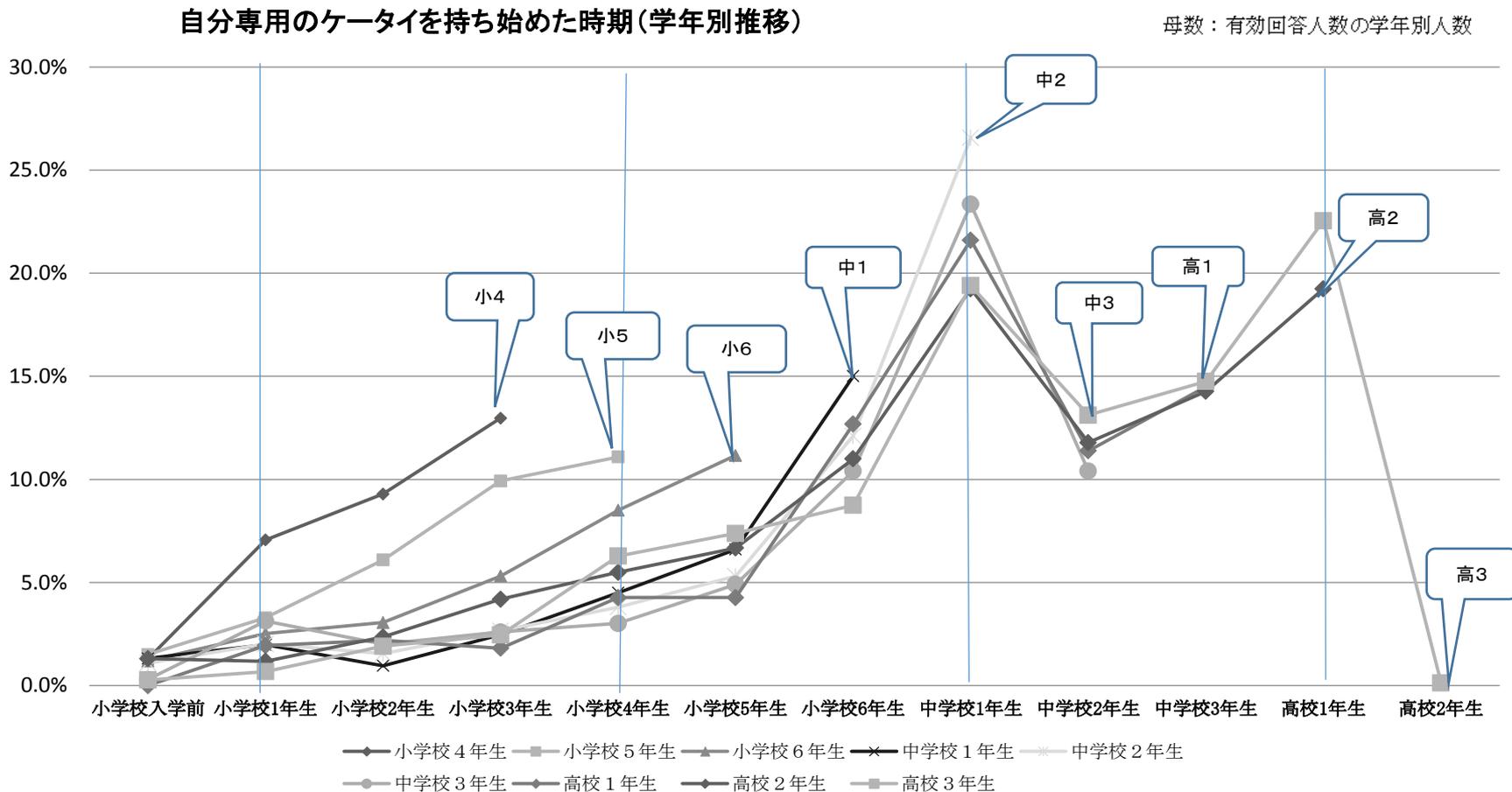
(複数回答可)



「インターネットを利用する時に使用する機器等」について、スマートフォン、パソコン以外で多いのは、「ゲーム機」で小学生45.8%、中学生22.9%、高校生10.4%

4 自分専用のケータイを持ち始めた時期

ケータイを持ち始めるのが一番多いのは、中学校1年生

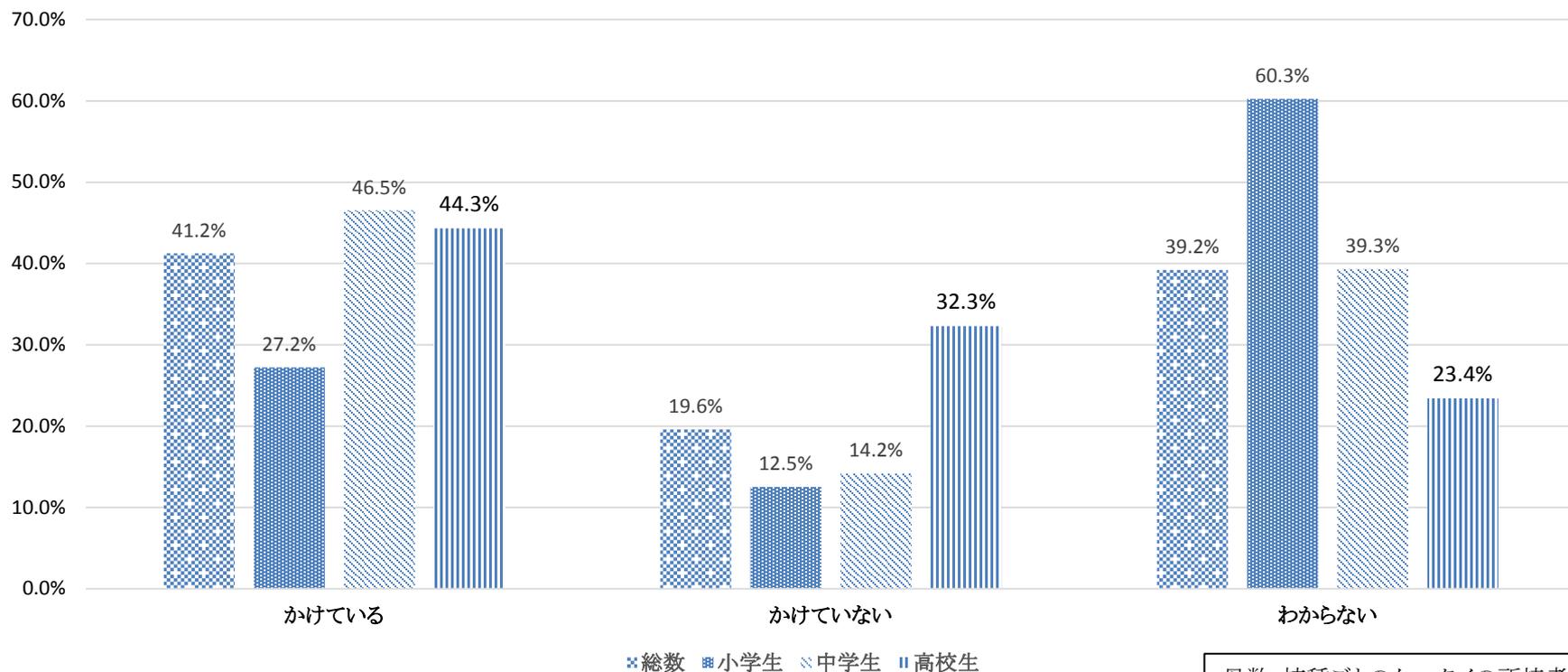


ケータイを持ち始めるのが多い小学校3年生、中学校1年生、高校1年生

5 ケータイでのフィルタリング利用状況

児童生徒の41.2%は、フィルタリングを利用

フィルタリングの利用状況(校種別)



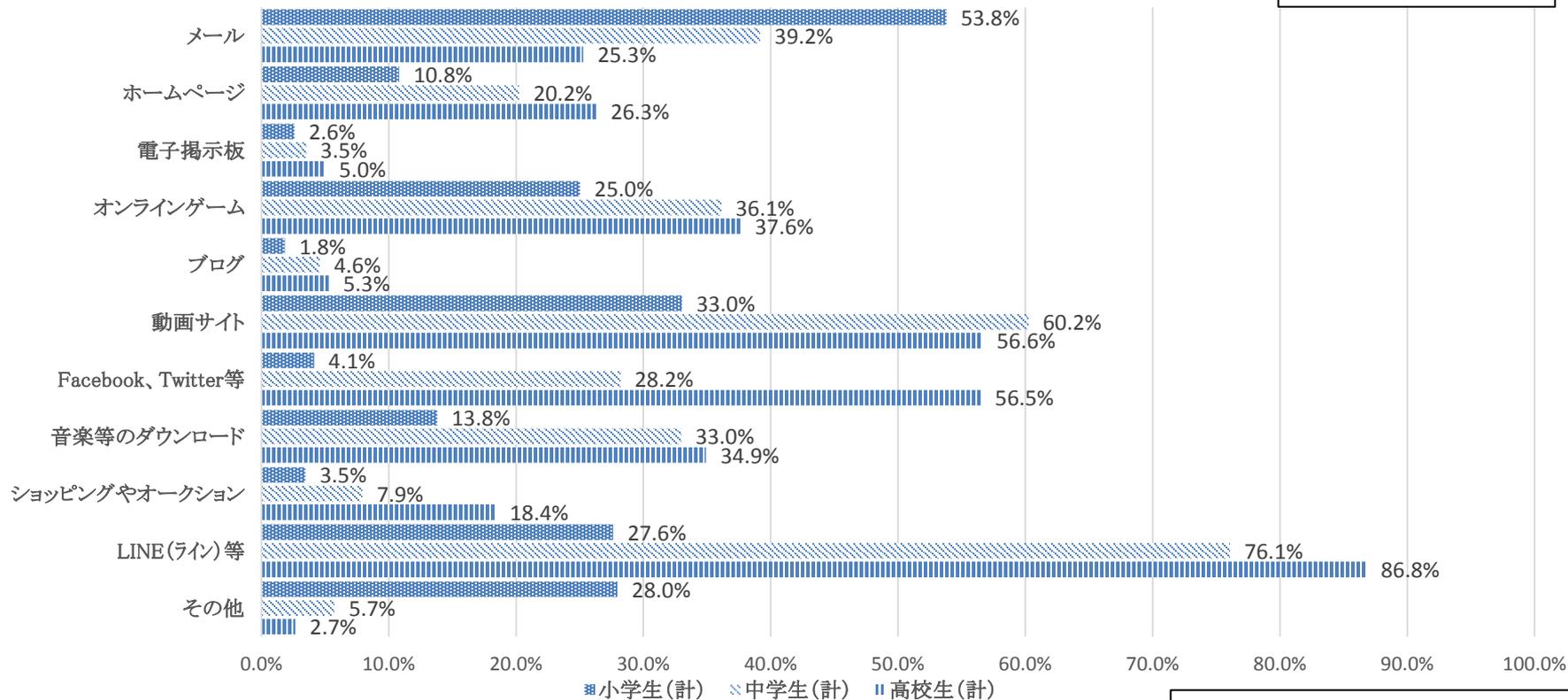
フィルタリングの利用状況は、小学生27.2%、中学生46.5%、高校生44.3%。なお、小学生の60.3%は「わからない」と回答

6 ケータイでの利用状況

高校生で利用が多いのは、「LINE等」「Facebook、Twitter等」で、特に「LINE等」については86.8%が利用

ケータイでの利用状況(校種別)

(複数回答可)



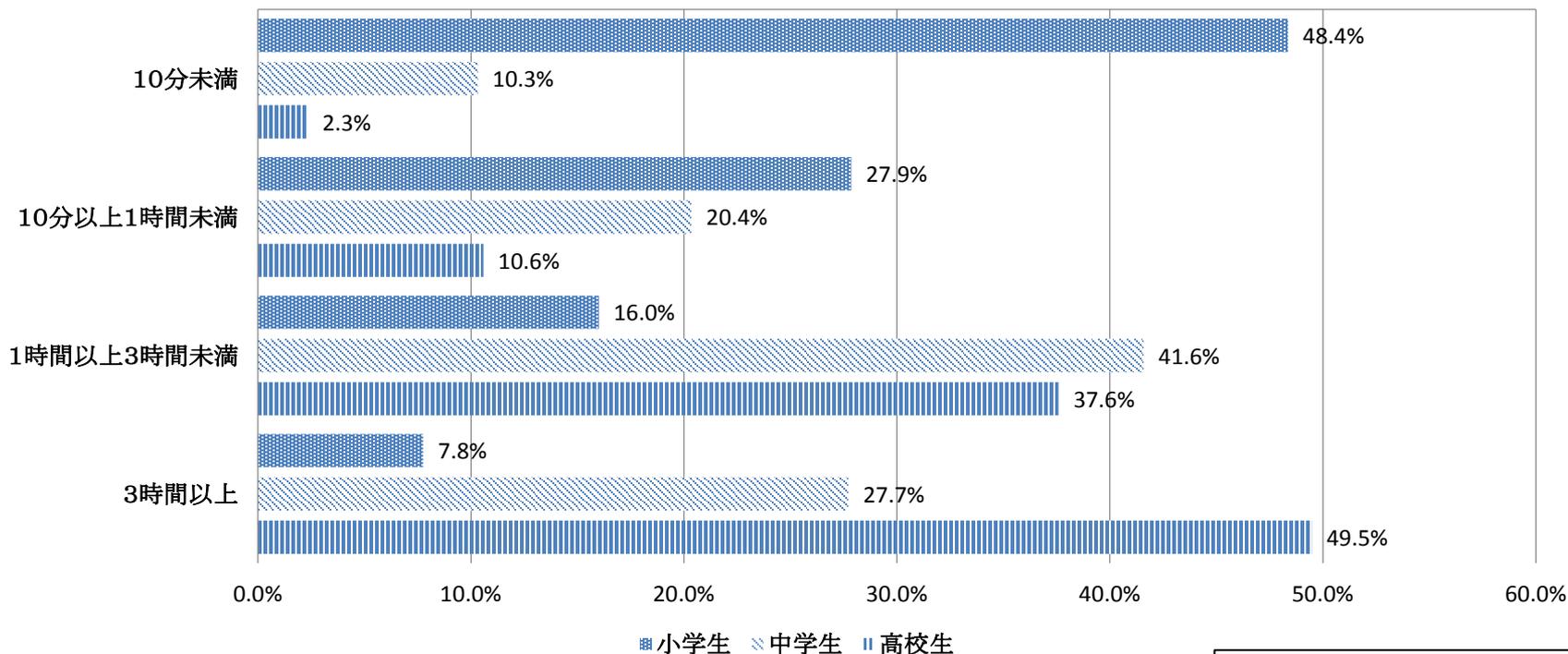
母数:校種ごとのケータイの所持者数

「LINE等」の利用は、中学生76.1%、高校生86.8%で最も多い
小学生については、「メール」の利用が53.8%と最も多い

7 ケータイの平均的な利用時間

校種が上がるにつれて利用時間が増加

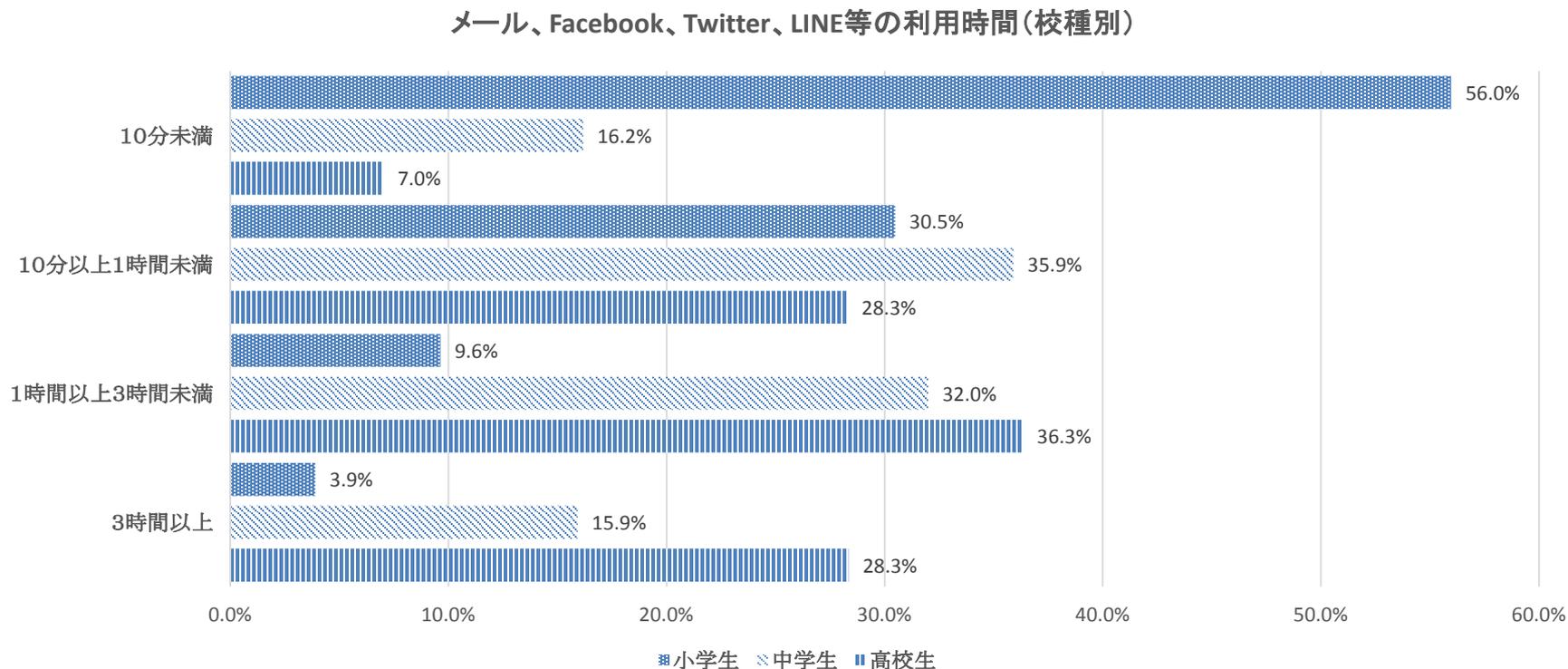
学校がある日のケータイの平均的な利用時間(校種別)



1日3時間以上利用する割合は、小学生7.8%、中学生27.7%、高校生49.5%

8 「メール」、「Facebook、Twitter等」、「LINE等」の利用時間

校種が上がるごとに、利用時間が増加

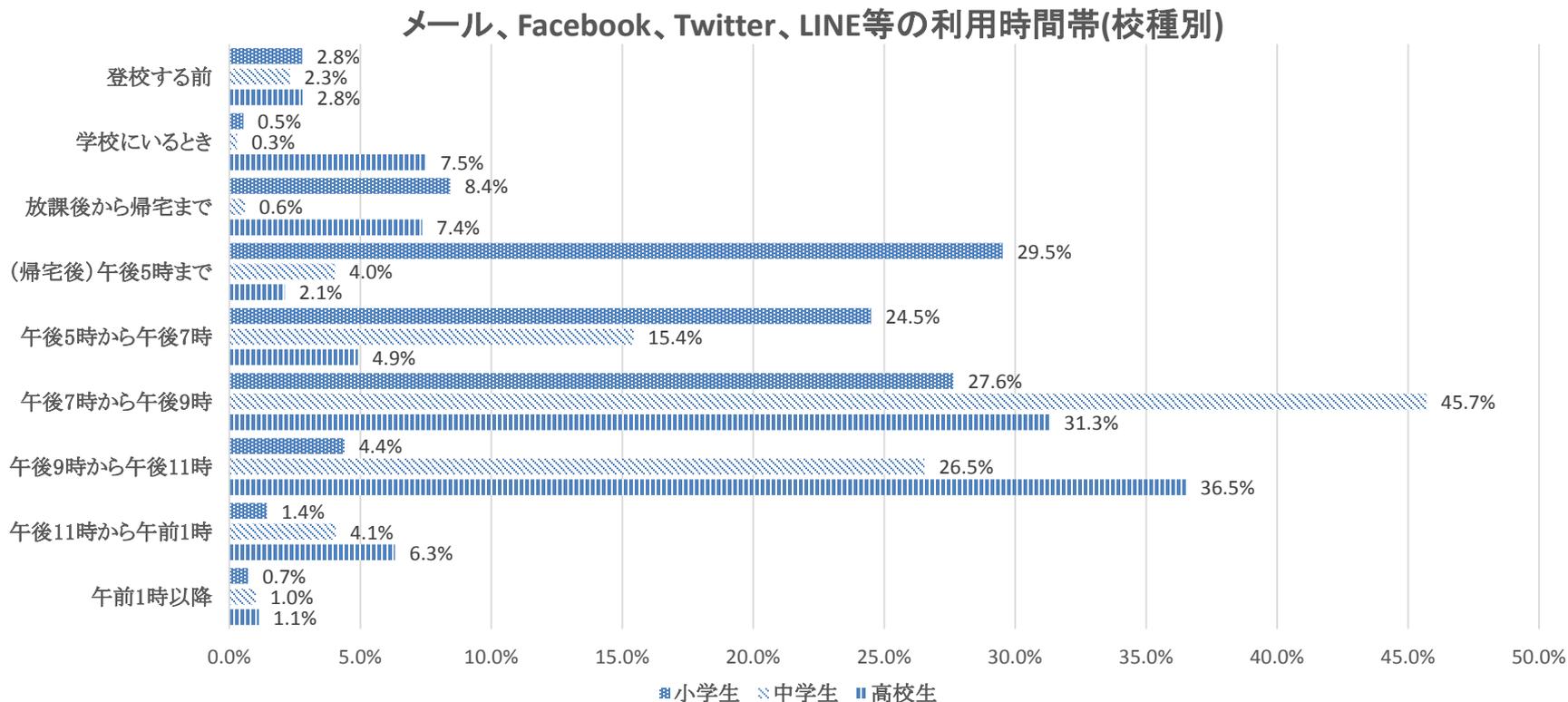


母数：校種ごとの「メール」、「Facebook、Twitter等」、「LINE等」の利用者数

1日3時間以上、「メール」、「Facebook、Twitter等」、「LINE等」の利用している割合が、小学生3.9%、中学生15.9%、高校生28.3%

9 「メール」、「Facebook、Twitter等」、「LINE等」の利用時間帯

利用時間帯で最も多いのは、小学生「帰宅後すぐから午後5時まで」、中学生「午後7時から午後9時」、高校生「午後9時から午後11時」



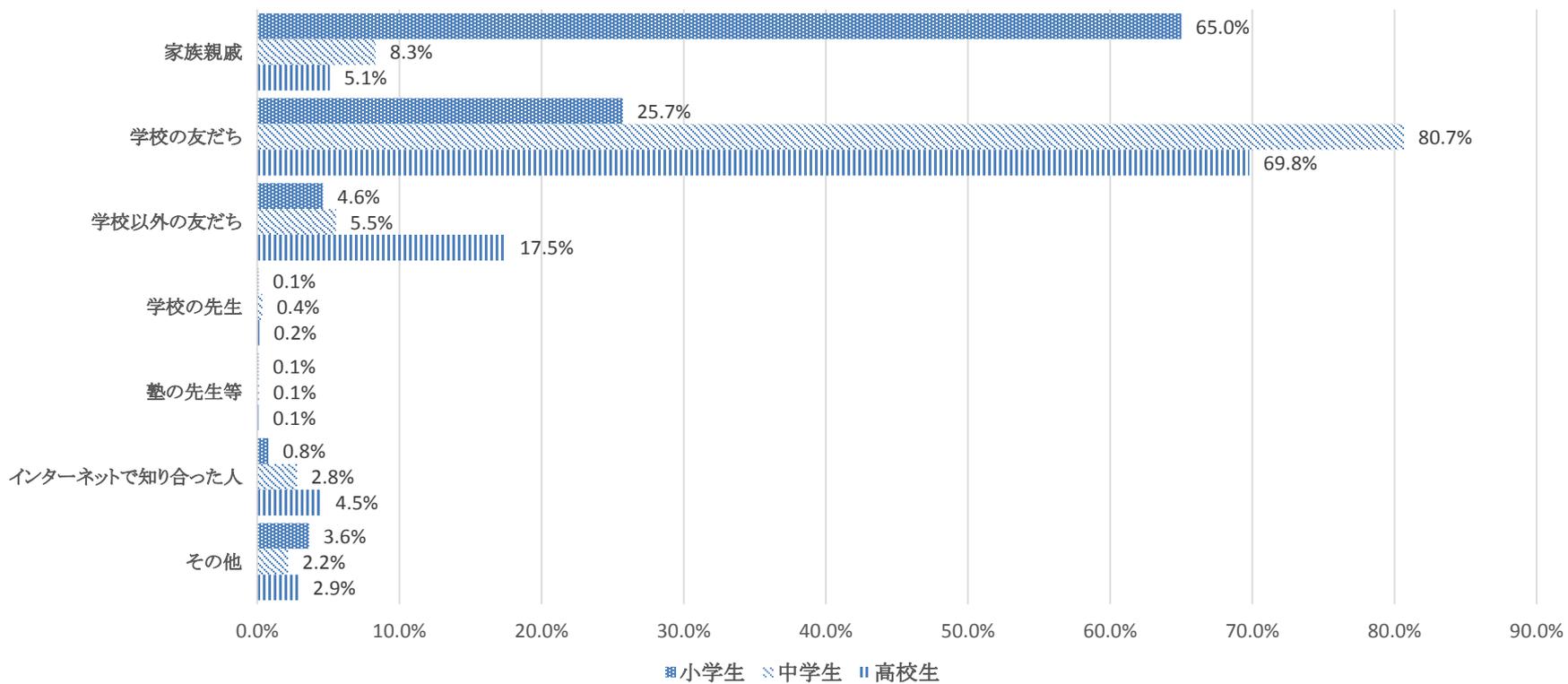
母数：校種ごとの「メール」、「Facebook、Twitter等」、「LINE等」の利用者数

午後11時以降の利用は、小学生2.1%、中学生5.1%、高校生7.4%

10 「メール」、「Facebook、Twitter等」、「LINE等」の利用相手

校種が上がるにつれて、つながりが広がる

メール、Facebook、Twitter、LINE等の利用相手(校種別)



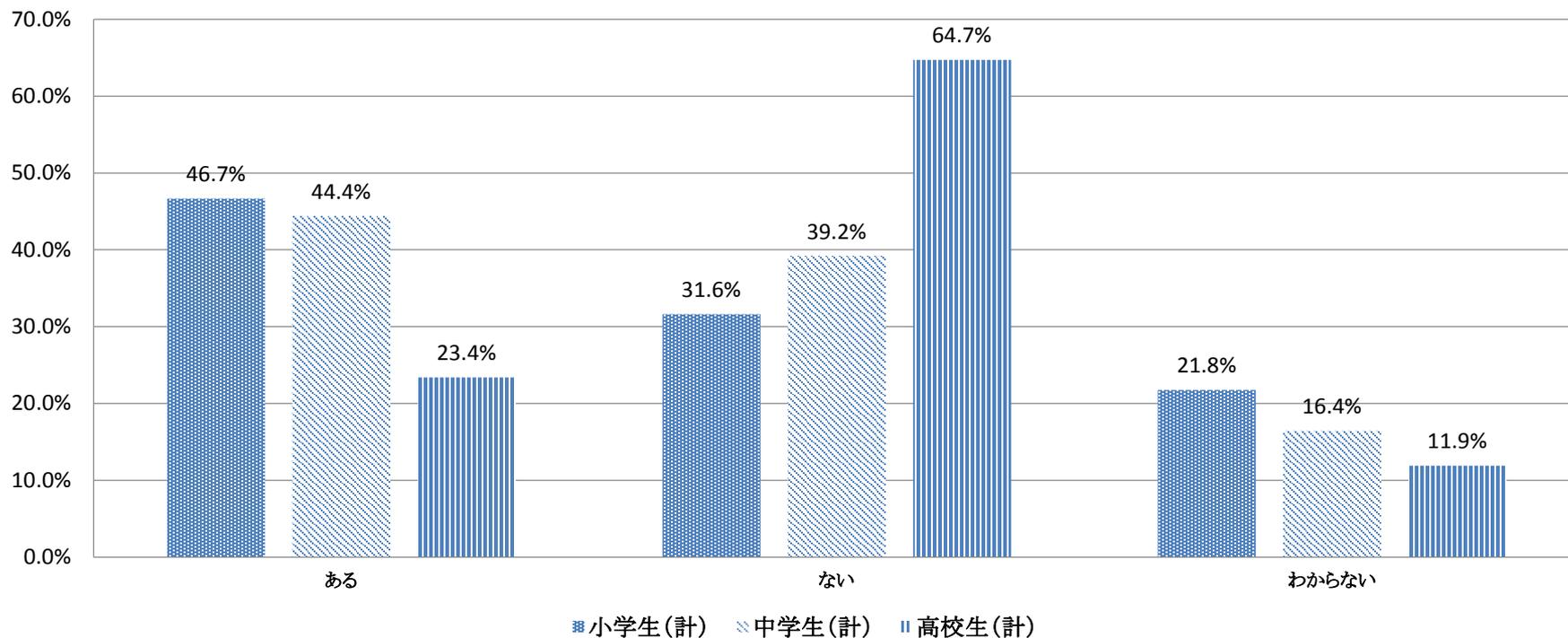
母数：校種ごとの「メール」、「Facebook、Twitter等」、「LINE等」の利用者数

利用相手について最も多いのは、小学生は「家族・親戚」で65.0%、中高生は「学校の友だち」で中学生80.7%、高校生69.8%

11 ケータイの使い方のルール

約半数の小中学生の家庭で使い方のルールを作成

ケータイの使い方に関する家庭でのルール(校種別)



母数:校種ごとのケータイの所持者数

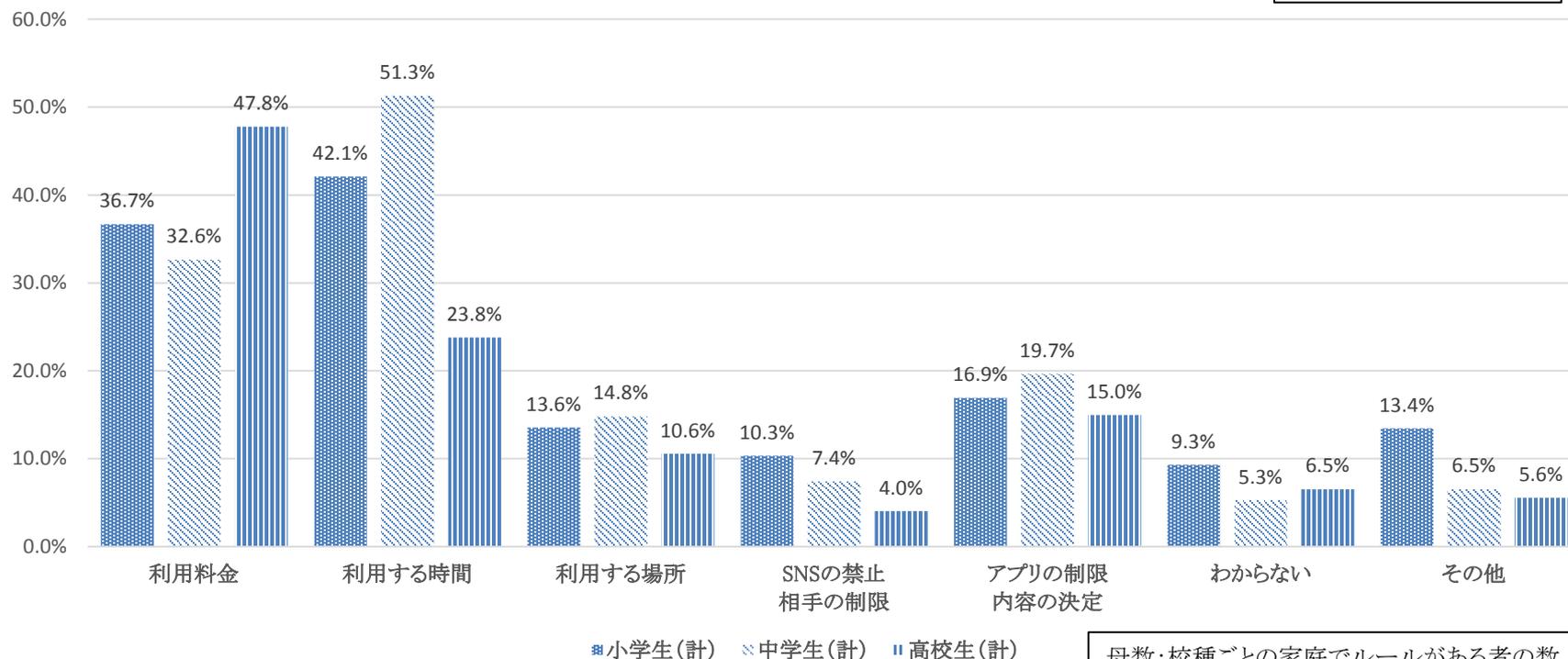
ケータイの使い方に関する家庭でのルールが作成されていないのは、小学生31.6%、中学生39.2%、高校生64.7%

12 ケータイの使い方に関する家庭でのルールの内容

家庭内のルールで多いのは、「利用する時間」「利用料金」

ケータイの使い方に関する家庭でのルールの内容(校種別)

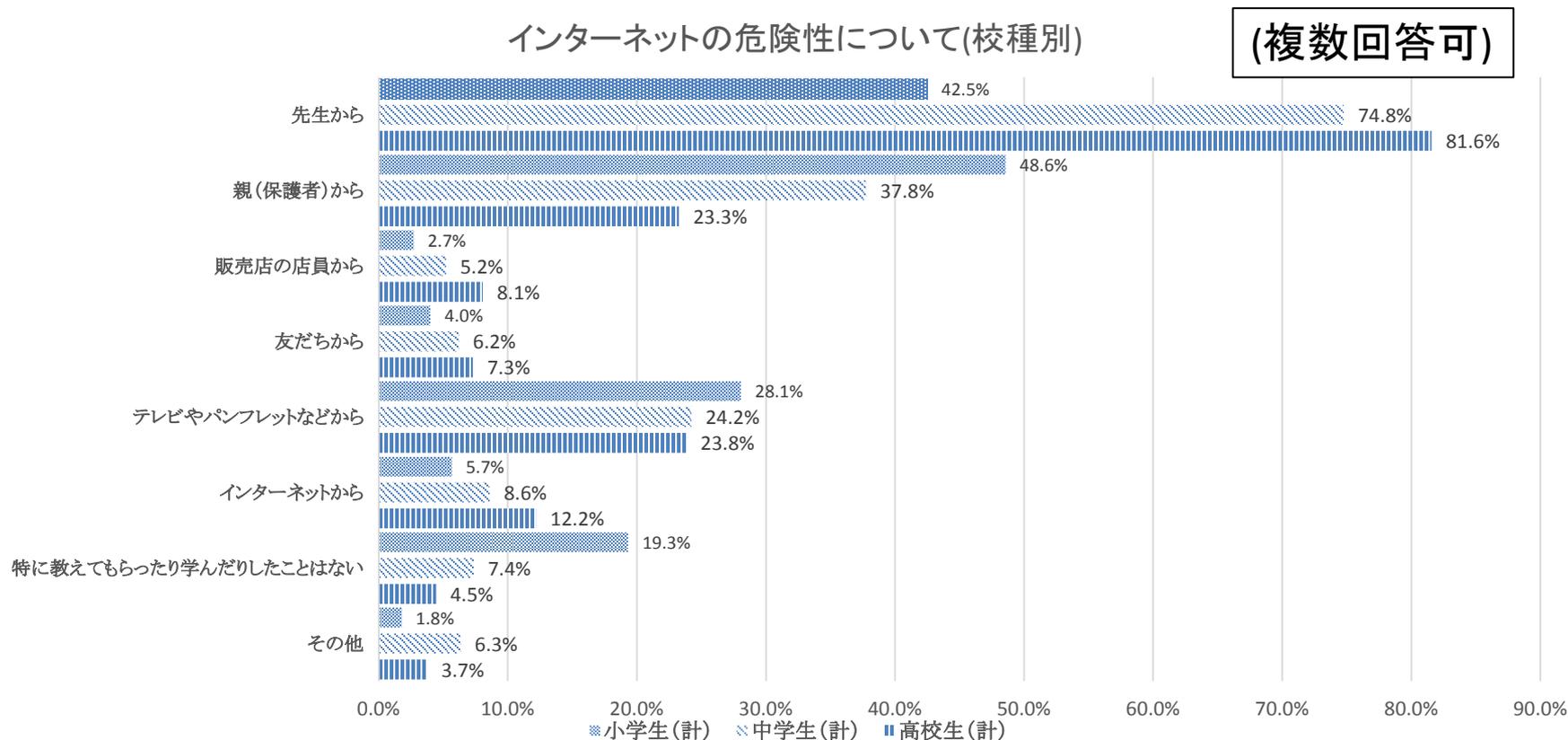
(複数回答可)



ケータイの使い方に関する家庭でのルールについて最も多いのは、小中学校では、「利用する時間」で小学生が42.1%、中学生が51.3%。高校生は、「利用料金」で47.8%

13 インターネットの危険性について学ぶ機会

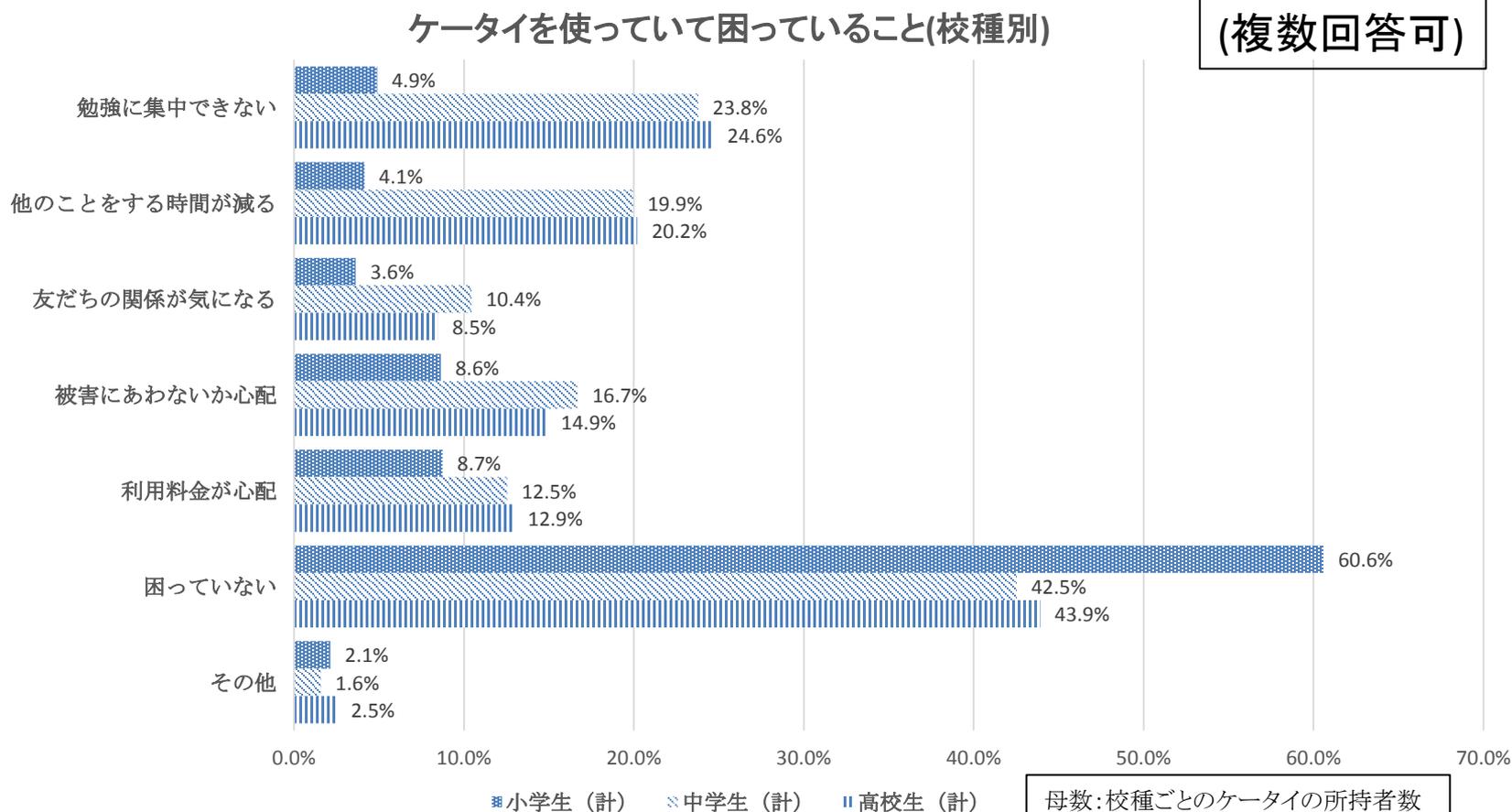
インターネットの危険性について学ぶ機会が多いのは、「先生から」や「親(保護者)から」



インターネットの危険性について学ぶ機会が最も多いのは、小学生は「親(保護者)から」で48.6%。中高生は「先生から」で中学生74.8%、高校生81.6%

14 ケータイを使っていて困ること

中高生で何らかの困り感を抱く生徒は、約6割



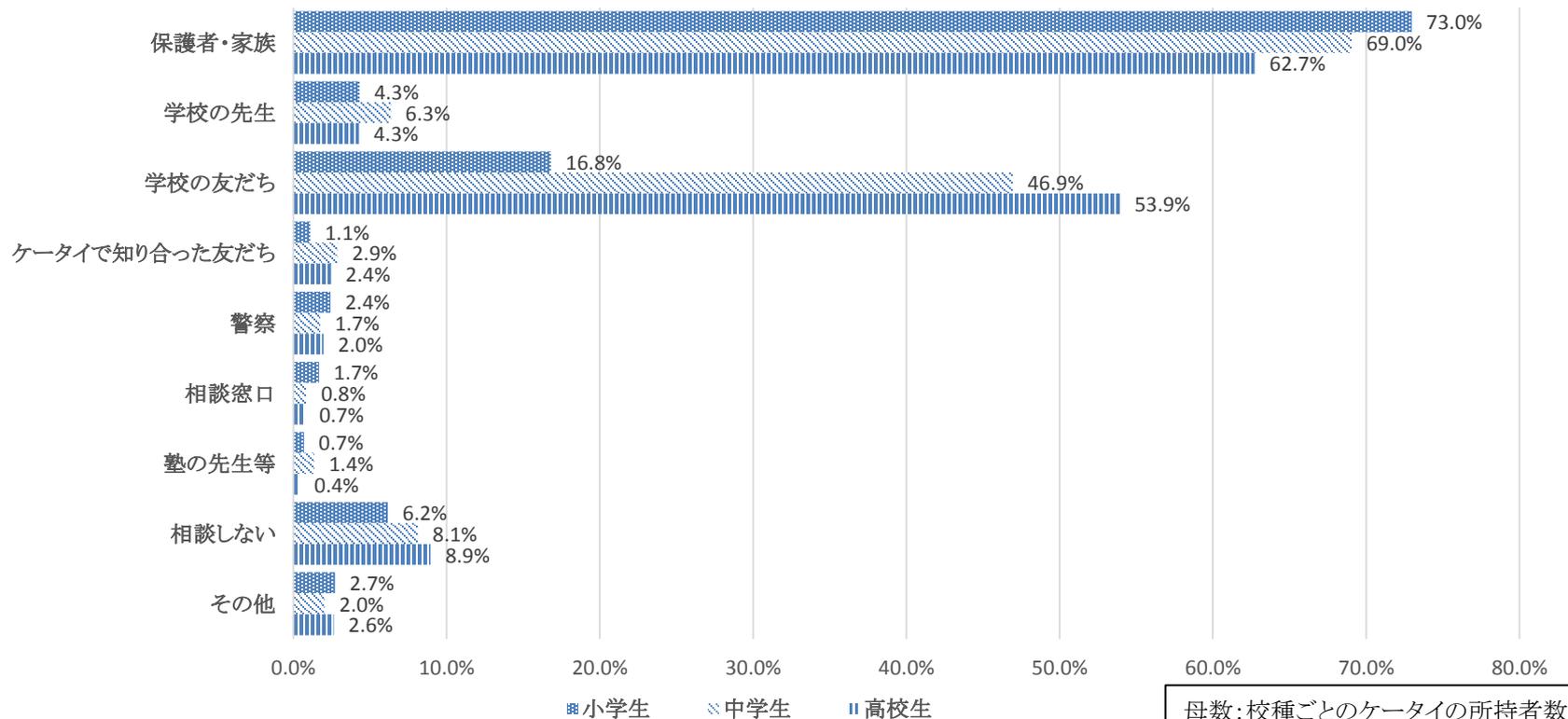
中高生が困っていることで最も多いのは、「勉強に集中できない」で中学生23.8%、高校生24.6%

15 困ったときの相談相手

全校種とも、相談相手として最も多いのは、「保護者・家族」

困った時の相談相手(校種別)

(複数回答可)



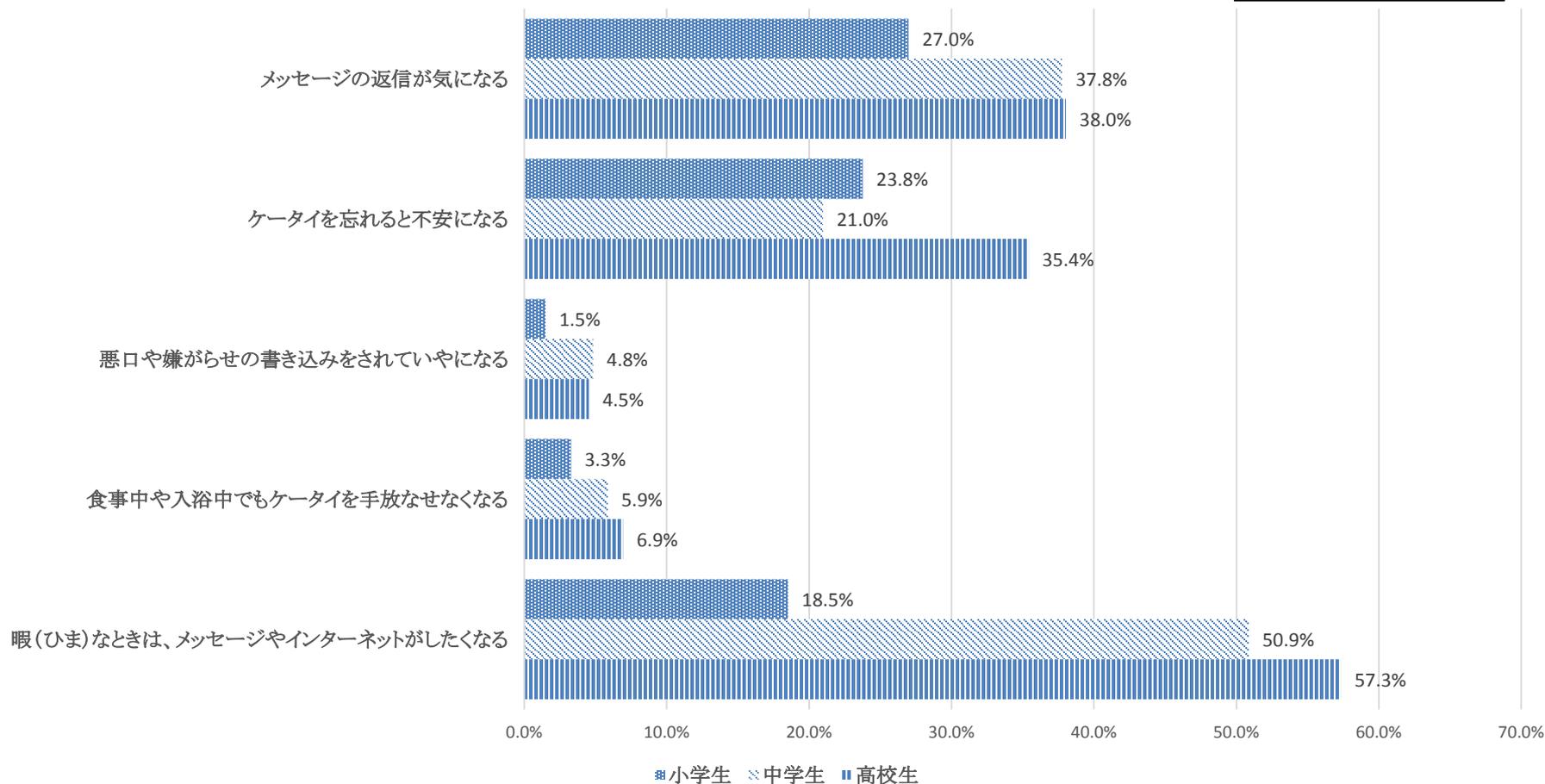
「相談しない」児童生徒は、小学生6.2%、中学生8.1%、高校生8.9%

16 ケータイを利用するときの気持ち

様々なことを感じながら、ケータイを利用している児童生徒

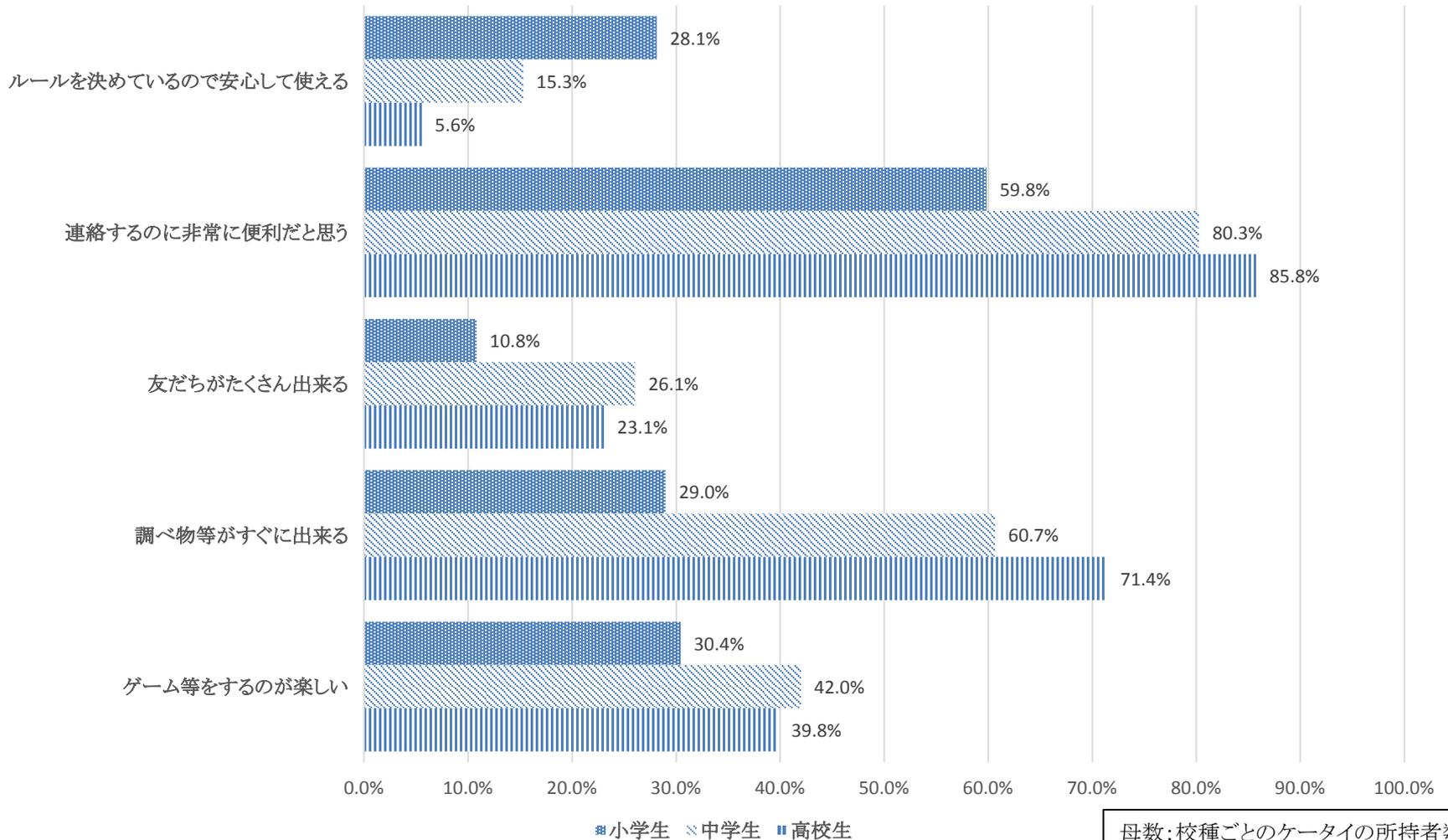
ケータイを利用するときの気持ち(校種別)

(複数回答可)



母数:校種ごとのケータイの所持者数

(複数回答可)



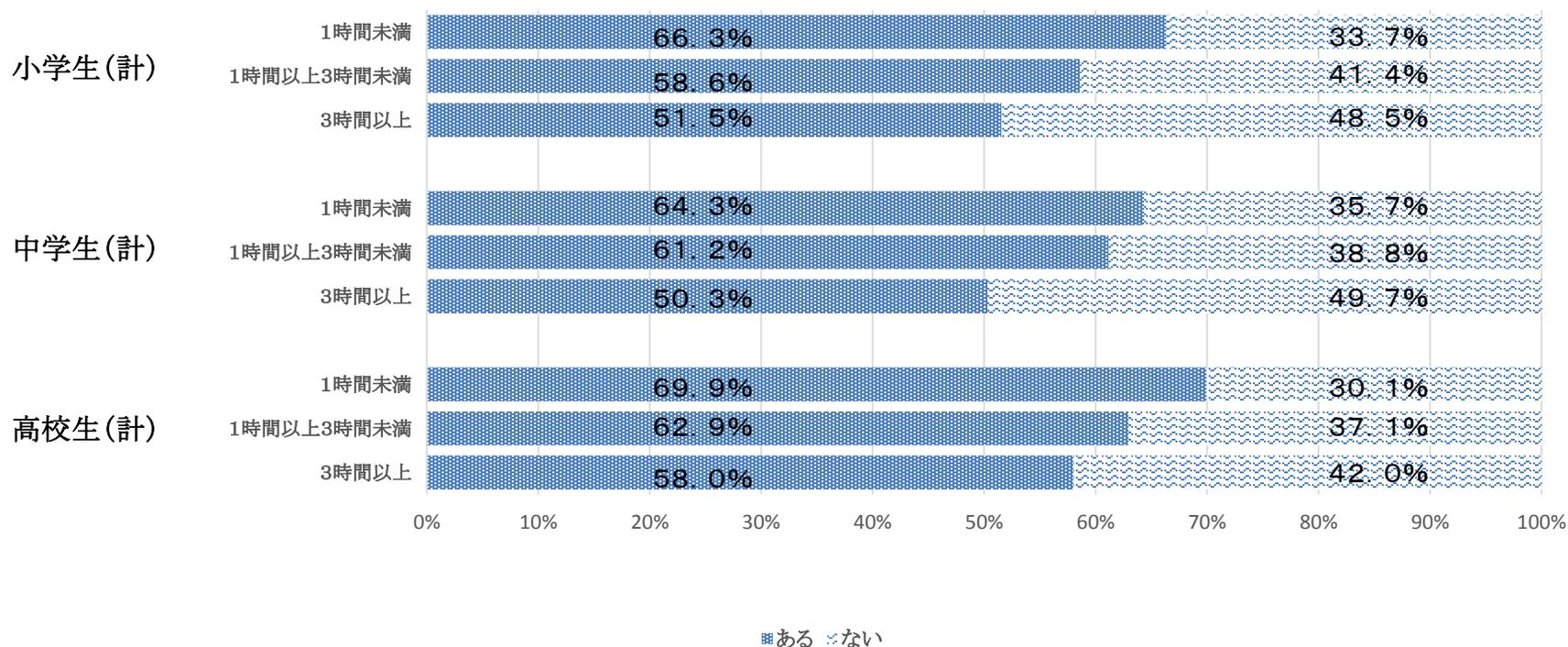
全校種で比較的多かった回答は、「メッセージの返信が気になる」、「暇(ひま)なときは、メッセージやインターネットがしたくなる」、「連絡するのに非常に便利だと思ふ」、「調べ物等がすぐに出来る」

17 利用時間と自己肯定感の関係

(クロス集計)

長時間利用している児童生徒は、自己肯定感が低い傾向

「あなたは、『自分によいところがある』と思うことがありますか」と
「あなたは、学校がある日に一日どれくらいケータイを利用していますか」のクロス集計



「3時間以上」ケータイを利用している児童生徒の中で、良いところが「ない」と回答している割合が、小学生48.5%、中学生49.7%、高校生42.0%である

◆◆調査から見えてくること◆◆

※<>は根拠となる調査番号

ケータイだけじゃない！

ゲーム機や音楽プレイヤーからもインターネットへ！！

- ゲーム機や音楽プレイヤーの所持率が高い <2、3>
- 小学校段階からケータイを持ち始める傾向 <4>
- 約半数がフィルタリングを利用 <5>
- インターネットの危険性について学ぶ機会が多いのは、学校（先生）や家庭（保護者）から <13>



【学校】・小学校の頃から発達段階に応じた注意喚起
(ゲーム機等を含むインターネット接続の危険性等について)

・発達段階に応じた学習
(ケータイ利用上のリスクやモラルについて)

・「教員用指導資料」(三重県教育委員会作成)等を活用した授業

【家庭】・家庭での話し合い
(フィルタリングの利用、持たせる時期、ケータイ利用上のマナー等)



多くの児童生徒がケータイの利便性を感じながら利用！ しかし、一方で何らかの困り感を抱く中高生は約6割！！

- 中高生の利用が多いのはLINEや動画サイト等、小学生はメールの利用<6、8、9>
- 校種が上がるにつれて、ケータイの利用時間が増加 <7>
- 校種が上がるにつれて、交信相手が広がる傾向 <10>
- 困り感があるのにやめられない実態 <14、16>

- 【学校】・児童生徒が主体的に考える取組や児童会・生徒会活動
(ケータイの適切な利用についてのルールづくり等)
- 【家庭】・ケータイの使い方のルールづくり 等



効果的な学びの場所は、学校や家庭！ ケータイを持ってからも、持つ前も！！

- 困った時に相談する相手のほとんどが保護者、友だち <15>
- 困った時に「相談しない」児童生徒が、1割弱 <15>

- 【学校】・普段からの相談できる環境づくり
- 【家庭】・普段からの相談できる家族関係づくり



スマートフォン等の使用に関する実態調査結果より

【主な実態】

- 自分専用のケータイの所持率 小39.9% 中60.9% 高99.1%
- スマートフォン以外でインターネット接続する機器で多いのは「ゲーム機」 小45.8% 中22.9% 高10.4%
- ケータイを持ち始めるのが多い時期 小学校3年生 中学校1年生 高校1年生
- 児童生徒の41.2%がフィルタリングを利用
- ケータイの利用で多いのは、中高生は「LINE等」 中76.1% 高86.8% 小学生は「メール」の利用53.8%
- 1日3時間以上の利用 小7.8% 中27.7% 高49.5%
- 交信相手で最も多いのは、小学生は「家族・親戚」 中高生は「学校の友だち」
- 危険性について学ぶ機会が多いのは、小学生は「親(保護者)から」 中高生は「先生から」
- 中高生で何らかの困り感を抱く生徒は、約6割
- 困った時に相談する相手のほとんどが「保護者・家族」、「友だち」

【問題提起】

- インターネット接続やフィルタリングの利用について、小学校段階から、発達段階に応じた取組が必要
- ケータイを様々な目的で活用。適切に利用するためのルールやマナーを学ぶことが大切
- 学年が上がるにつれて、交信相手に広がりがかがえるため、インターネットの危険性等について学ぶことが必要
- 困り感があるのにやめられない実態。ケータイの適切な利用方法等について児童生徒が主体的に考える取組が必要

【今後の取組事例】

学 校

- ◆ケータイの使い方や危険性などの話し合い(学活、LHR等)
- ◆ルールづくり(児童会、生徒会等)
- ◆「教員用指導資料」を活用した授業
- ◆ネット検定(小中学校)
- ◆リスク・モラル教育
- ◆ネット啓発講座(保護者啓発)の活用
- ◆出前講座の活用
(三重県警察本部、総務省等)

インターネット社会を 生き抜く力の育成

連 携

～期待する姿～

- ◇当事者である小中高生の気づきと行動
- ◇情報モラルについて、小中高生から発信
- ◇基本的生活習慣の見直し
- ◇次世代の保護者の育成

家 庭

- ◆家庭での話し合い
(フィルタリングや持たせる時期等)
- ◆ルールづくり(使い方等)
- ◆啓発講座等への参加
(インターネット接続の危険性等)
- ◆子どものネット利用の見守り
(ペアレンタルコントロール)

※ここでいう「ケータイ」とは、携帯電話やスマートフォンのこと
※小学生、中学生、高校生は、小、中、高と表記

三重県教育委員会

(主な取組)

- ◆児童生徒が主体的に取り組む機会の設定 ◆啓発チラシ等の作成
- ◆ネット検定(小中学校) ◆ネット啓発リーダーによるネット啓発講座(保護者への啓発)
- ◆解決困難な事案へのネット対策チームによる支援 ◆委託業者による検索・削除・相談
- ◆教員研修(教員の指導力向上)※「教員用指導資料」を活用した講座の実施